

この業績を称えて北尾春圃顕彰会は、日本医史学会、日本東洋医学会、東亜医学協会の後援のもと、名誉会長に矢数道明先生を戴き、安福彦七会長、安井広迪委員長及び地元養老町、大垣市の方々をはじめ、広く全国の有志の協力を得て、春圃菩提寺である福源寺に顕彰碑を建立した。

当日は、清水敏郎養老町々長をはじめとして、東亜医学協会より矢数道明会長、矢数圭堂常任理事、北里東医研医史文献研究室の小菅戸洋室長ほか、総勢百数十名にのぼる参加者を得て、除幕式が挙行された。

式典のあと法要が営まれ、その後、三人の講師により講演。岐阜市歴史博物館の寛真理子氏が、「朝鮮通信使と北尾春圃」と題して、江戸時代の朝鮮通信使の全般的な解説と春圃とのかかわりを述べた。次いで安井広迪氏が春圃の医師の実際を紹介。最後に安福彦七氏が、春圃の人物像の紹介をして、幕を閉じた。

(土屋 伊磋雄)

例会抄録

ビデオ「呉秀三―狂気の立ち会い人」

岡田 靖雄

これは民間衛星放送WOWOWで、一九九二年五月一日昼に二五分間放映されたものである。

いまや世紀末で、一〇〇年前の世紀末に超常現象、宗教、

肉体―精神問題などの迷宮に足をふみいれて強力なメッセージをのこした一三人の流星たちをとりあげる、といった主旨で企画された「迷宮十三伝」の第七回。ほかにとりあげられているのは福来友吉、長岡半太郎、赤木城吉、井上円了、宮沢賢治、木村鷹太郎、丘浅二郎、西川一草亭、清家新一、夏目漱石、出口王仁三郎、南方熊楠。このうち何人かは呉先生と交際があり、また何人かは異才とともに精神変調をもっていた。それらの人のまんなかに呉先生がおかれていたことは興味ふかい。

この製作にあたったのはセディックという会社で、筋書きをつくりあげたところで、わたしのところへもってこられたので、一部分の誤りは訂正したが、すこしの誤りがのこった。若者むけのおもしろい筋にしたというが、製作者はわたしの著作などで、呉先生について比較的よく勉強していた。

わたしは最後の四分間の解説で、呉先生がかかげた精神科医療の理念の先進性、それらがまだ実現されていないことをのべ、また森林太郎、夏目金之助を例に、呉先生が目にした創造の苦しみについてのべている。ちょうど呉先生没後六〇年にあたる。

このビデオは製作会社から呉先生のご遺族におくってもらったが、もうほとんどが孫の世代。祖父のことはちょっときいてはいたが、これでよくわかった、とよるこんでいたのだ。医学史普及のためにも、こういう機会はできるだけ利用したい。

(平成四年十二月例会・於順天堂大学)